

総社町養蚕農家見学 R5.10.21

都丸甲子郎家

建築：大正 15 年

土間の天井はすのこ天井になっている。
庭先にある穴倉は、大正時代に造られた桑の倉庫であったが、戦時中は防空壕として使用されていた。



都丸耕治家

建築：嘉永 7 年(1854)

長岡村(現榛東長岡)から移築。当初は茅葺であったが大正時代に瓦葺にした。
この地域では数少ない入母屋造りで天窓の屋根も寄棟屋根という珍しい佇まいである。軒下には 2 階が蚕室であったときの桑を上げるための滑車が当時のまま残っている。

関口省造家

昭和 32 年に芳賀村(現芳賀地区)から移築したもので、築 120 年近いという。
間口 13 間(2 階は 11 間)奥行 4 間 4 尺、切妻屋根瓦葺き天窓は三ツ櫓で、軒高が高くより建物が大きく見える。
2 階の持出し部分を受ける腕木を支える鋳物製の持ち送りがついており、当時の建築的特徴がうかがえる。



都丸準之助家

左側は幕末に建てられ、右側が蚕室として大正初期に増築された。
都丸家は蚕種を営んでいて、増築部分の 1 階は広い土間で条桑育や桑場として使われていた。左の棟の天窓には戸袋がついているため天窓部分が高く、庇や戸袋の屋根に彫刻など装飾が施されている。